

日本型高大接続の転換点

『大学入試の終焉－高大接続テストによる再生』から

北星学園大学

佐々木隆生

sasakit@econ.hokudai.ac.jp

tsasaki@hokusei.ac.jp

高大接続の機能不全

高大接続の2要素と日本型接続

日本型接続の機能不全

高大接続の国際比較：日本の特殊性

転換点としての「第3の教育改革」

知識基盤社会からみた論点

高大接続の2要素と日本型接続

- 高大接続の2要素
 - ①教育接続(教育課程上の連続性)
 - ②選抜接続(入学志願者から選抜)
- 教育接続
 - ①高校卒業＝入学資格(学校教育法第90条)、卒業認定は高校長の権限
 - ②ナショナル・カリキュラム(学習指導要領)
- 選抜接続
 - ①個別大学が入試を実施して選抜
 - ②選抜は学力検査依存

高大接続の国際比較：日本の特殊性

	(1)教育上の接続a.教育課程, b.学力把握	(2)進学先選択上の接続＝選抜
アメリカ・欧州	欧州：国民的教育課程と共通テスト：資格試験（バカロレア、アビトウーア、GCE） アメリカ：教育課程なしと共通テスト（ACT、SAT）	個別学力試験なしの選抜（書類、面接など） 別個の共通・個別試験があるのは英仏のごく特殊校
日本	国民的教育課程と共通テストの欠落（高校卒業は高校長の権限）	①個別学力入試 ②AO・推薦入試

転換点としての「第3の教育改革」

-臨教審答申(1985)、中教審答申「新しい時代に対応する教育制度」(91)など-

- 高校の「国民的教育機関化」と個性重視の必要性
⇒①高校の多様化、②教育課程の弾力化
- 画一的人間を生む槓桿としての受験競争批判⇒③
入試の多様化と評価尺度の多元化



○教育上の接続に必要な学力把握は一層選
抜機能をもつ入試に依存

○普通教育重視の出題を含む総合判定主義の放棄

日本型接続の機能不全

少子化＝ユニヴァーサル段階への移行から顕在化

- 大学入試の選抜機能の低下
 - ①非学力選抜の拡大
 - ②少数科目入試の拡大
- 教育接続の断絶
 - ①教育課程の弾力化と「普通教育の完成」の放棄
 - ②backwash effect (入試⇒高校教育)の減少

知識基盤社会knowledge-based societyからみた論点

- 大学の作り過ぎか？⇒大学進学率・大学院進学率の国際的低位にもかかわらず接続の機能不全が生成
- ユニヴァーサル段階（進学率50%以上）では、エリート段階（15%まで）やマス段階（50%まで）での教育を含む大学の機能分化⇒以前の段階の入試は合理性を欠く
- 高校の「国民的教育機関化」⇒「普通教育の完成」への回帰は合理性を欠く

高大接続転換に求められるもの

「接続」という課題と学力把握

「落第試験」による接続

従来の入試の問題点

普通教育再構築の必要性

大学での初年次教育の必要性

接続という課題と学力把握

- 異なる段階の学校間接続は近代教育制度構築の課題－各段階の学校は独自の使命をもつ：高大接続には「上から」と「下から」の結節点という特殊性が加わる
- 接続を保証する制度としての資格試験（欧州）やテスト専門機関による学力把握（アメリカ）
- 日本型では、入試が体现

「落第試験」による接続

- 個別大学での選抜＝「落第試験」(定員を上回る志願者を落とすための試験)による選抜
 - 「落第試験」に求められるもの⇒「公平・公正な」学力試験の成績だけに基づく成績の序列化
- ⇒根源的な問い:「落第試験」による学力把握に教育接続の学力把握を委ねてよいのか

従来の入試の問題点

- 学力だけにしても序列化には限界（かなりの競争倍率が必要）
 - 一度だけの入試で能力・資質を測ることが可能か
 - 集団準拠の素点主義のテストの限界：①評価尺度としての素点の不安定性、②成績の受験者集団への依存と、到達度の難易度への依存、③教科・科目ごとの難易度の差
- ⇒学力把握の不安定性

普通教育再構築の必要性(1)

- 高校多様化・教育課程弾力化・入試の多様化と評価尺度の多元化⇒あまりに多い入試のパターン⇒教育と進路指導の安定性欠如
- 「普通教育の完成」の放棄⇒高校生の学習意欲や視野の制限と大学生の基礎的教科・科目の基礎学力の欠如

普通教育再構築の必要性(2)

普通・一般教育を欠いた「専門家」は創造的で広い視野をもつ知識人にならない

⇒「知識人不在」の危険

知識基盤社会では、融合領域、学際領域、異分野手法の応用が必要

⇒縦割りからは「二流の専門家」しか生まれない



普通教育の再建：基礎的教科・科目の学習の必要性：個性重視と普通教育は矛盾しない

大学の初年次教育の必要性

- ①高校の「国民的教育機関化」、②大学のユニヴァーサル段階⇒大学入学者の資質・能力の多様化
 - 義務教育からの積み上げと大学での先端的教育・研究からの教育的要請の乖離
- ⇒リメディアル教育や初年次教育の必要性、しかし、教育のための基礎資料の欠如（接続教育という新しい課題への対応）

日本型高大接続の転換に求められるもの

- ①達成度を測る共通の学力把握の仕組みの導入、②「落第試験」に代わる選抜方法の導入、③基礎的教科・科目についての達成度把握を通じる普通教育の再構築、④リメディアル・初年次教育の参照資料の導入
- これらの目的に対応する高大接続テストの構築・導入が必要

大学入試批判の限界と日本型 高大接続の基盤

大学入試批判の限界
高等教育機会の慢性的不足
序列化と大学の単独選抜志向

大学入試批判の限界

- 1963年中教審答申から今日までの大学入試改革は、日本型高大接続を前提に展開⇒「総合判定主義」の変質と失敗
- 政治的焦点は、受験競争の緩和と学力検査依存からの脱却⇒高大接続の機能不全を準備

日本型高大接続を前提とする改革は本質的な限界を抱えている

高等教育機会の慢性的不足

- 日本型高大接続を機能させてきた基盤の中で最も重要なものは「高等教育機会の慢性的不足」
- 高等教育予算の貧困⇒私立大学の極端な優位の大学構造の形成
- 慢性的不足の解消は同時に日本型接続の機能不全を顕在化

序列化と大学の単独選抜志向

- 個別大学の選抜権主張と序列化回避が独特の個別大学での選抜制度を形成

(1) 選抜権と個別大学での入試とは必然的に結合するものではない

(2) 序列化を入試方法の改革によって解消するのは不毛

最後に

- 必要とされているのは大学入試改革ではない：日本型大学入試は終焉の時を迎えている
- 高大接続を教育改革の視点からとりあげて適切な高大接続テストを構築・導入することが必要

了